



東北大学 男女共同参画推進センター開設

平成26年4月、「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針」にもとづき、本学全体の男女共同参画活動を円滑に推進するため、東北大学男女共同参画推進センターが設置されました。当センターでは、男女共同参画委員会を支援し、女性研究者等への支援事業、学内外への情報発信など、各種の男女共同参画に関する施策を実施してまいります。これからこのニュースレターで、さまざまな取り組みや公募情報などをお知らせしていきたいと思っております。このニュースレターが、みなさんとセンターを結び懸け橋となることを祈っております。

センター愛称・ロゴマーク 募集のお知らせ

このたび、男女共同参画推進センターでは、愛称・ロゴマークを広く公募いたします。決定したデザインは、今後のセンターのシンボルとして、看板、ポスターや各種製作物、ホームページ等に広く活用いたします。皆さま奮ってご応募ください。

募集要項

- 応募資格** どなたでも応募できます。
- 応募方法** 所定の応募用紙で作成し、郵送もしくは電子メールにて応募してください。
- 「応募用紙」のダウンロード
<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/>
- 応募期間** 平成26年8月15日（当日消印有効）
- 採用作品** ●最優秀賞（採用作品）…愛称 1点／ロゴ 1点
 ●優秀賞 …愛称 数点／ロゴ 数点
 賞状および副賞の授与

問合せ・応募先

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
 東北大学男女共同参画推進センター
 「愛称・ロゴマーク募集係」宛

E-mail t_boshu@morihime.tohoku.ac.jp
 URL <http://www.morihime.tohoku.ac.jp>
 TEL 022-217-6092

たくさんのご応募
お待ちしております！

東北大学男女共同参画推進センター 職員の紹介



理事（総務・国際展開・事務統括担当）
 男女共同参画推進センター
 センター長
植木 俊哉



総長特別補佐
 男女共同参画推進センター
 副センター長
大隅 典子
 （医学系研究科 教授）



男女共同参画推進センター
 副センター長
田中 真美
 （医工学研究科／工学研究科 教授）



男女共同参画推進センター
 副センター長
米永 一郎
 （金属材料研究所 教授）

スタッフ／橋爪圭（助手）、小飯塚さやか、佐和由紀、野中久美

男女共同参画推進のための行動指針

両立支援・環境整備 女性リーダー育成 次世代育成
 顕彰制度 地域連携 国際化対応 支援推進体制



平成26年度 サイエンス・エンジェル

センターのイベント情報
 7月30日(水)、31日(木) オープンキャンパス for 女子高生
 8月9日(土)、10日(日) 2014 夏休みサイエンススクエア（国立科学博物館）
 8月21日(木) 楽しい理科のはなし ～不思議の箱を開けよう～ 他

センターでは女性研究者に役立つ情報をメールで配信しております。興味のある方は是非、女性研究者メーリングリストにご登録ください。

東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL 022-217-6092

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
 E-mail mh_office@morihime.tohoku.ac.jp
 HP www.morihime.tohoku.ac.jp



募集実施プログラム

平成27年度の募集実施プログラムをお知らせします。ベビーシッター・利用料等補助は男性の方も利用可能です。内容によって対象、締切日が異なりますのでご注意ください。申請書（応募申請書）は男女共同参画推進センターのホームページからダウンロードしてください。

プログラム名	内容	対象部局	対象者	応募締切（平成27年）
1 研究支援要員	研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助（上限200万円）	自然科学系部局	育児を行う女性研究者	
2 研究支援要員（シェア型）	研究者同士で専任補佐員2名（男女共同参画推進センターより派遣）をシェア		海外や入道、国の選挙権、委員等の社会貢献を行う女性研究者	2月16日
3 ベビーシッター・利用料等補助	研究、講義、出張時のベビーシッター・利用料等の補助（上限10万円）		子供を持つ教員、技術職員、PD、博士学生	
4 スタートアップ研究費	一年目100万円、二年目50万円の研究費を支援	全部局	新規採用の女性教員（助教以上）	7月10日
5 研究スキルアップ経費	会議・シンポジウム等の旅費支援 開催地が海外：上限40万円、国内：上限15万円		女性教員（准教授、講師、助教）	（第一回）4月15日 （第二回）10月中旬
6 サイエンス・エンジェル	高校出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント企画・実施	自然科学系研究科	自然科学系の大学院女子学生	（一次締切）3月20日 （二次締切）5月8日
7 仙台10ンタクラブ 東北大学大学院 女子学生海外渡航支援	海外で開催される会議、シンポジウム等の旅費支援（上限15万円）	全研究科	大学院女子学生	6月頃 ※5月に募集開始

平成26年度 各種制度実施状況	・支援要員制度 ・支援要員制度（シェア型） ・ベビーシッター・利用料補助制度	8件採択 2件採択 28件採択	・スタートアップ研究費 ・研究スキルアップ経費 ・サイエンス・エンジェル（SA）	6件採択 31件採択 71名採用	女子学生海外渡航支援事業 2件採択
--------------------	--	-----------------------	--	------------------------	----------------------

[利用者の声]



第2子出産関連という時期に、本制度に応募し採用していただきました。3月というぎりぎりの時期に決まったため、研究支援要員を募るのに苦労しましたが、何と見つかりました。仕事、育児ともに大変忙しいときに、研究支援要員の方がいないわけにはいきません。研究を続けることはできなくなってしまうと思います。大変感謝しております。また機会があればと思います。（研究支援要員を利用）

9月までに女性研究者育成支援推進室からのメールにて本経費の募集を知りました。ちょうど1月の学会へ参加することを決めたときだったので、さっそく応募しました。選考結果の予定日を過ぎても通知が来なかった頃、11月上旬に採択のご連絡をいただきました。本経費の募集から2回しかなく、学会応募のタイミングに合わせた申し込みと申請にいくのが少し難しかったかもしれませんが、ご支援の賜でケンブリッジ大学で研究していたカンフレックスに参加することができ、国際発表も行い、海外の研究者と大変有意義な時間を共有することができました。ありがとうございました。（研究スキルアップ経費を利用）

（ベビーシッター・利用料等補助を利用）

この制度を知った経緯は、研究室の同僚が申し込もうとしていて、私に紹介してくれました。男女共同参画の取り組みの一部については知っていたのですが、多くの女性研究者を対象としているイメージがあり、非学制的の私でも利用できるということは、同僚が教えてくれたきっかけになりました。子供が小さいという理由や会議の参加が難しくなるといけないという思いで参加していたのですが、この支援制度を利用できることになりました。積極的に参加できるようになりました。

サイエンス・エンジェル

サイエンス・エンジェル（SA）活動は平成18年度に始まりました。平成27年度は10周年を迎えます。活動の詳細はセンターホームページでご覧いただけます。活動は、センターのページでサポートし、SAは研究、学業に支障のない範囲でイベントを担当します。次世代を担う小中高生とSAは共に成長し、また、国内外で活躍するSAOGの女性研究者のネットワークの一員となることで多様なキャリアの情報を得ることができます。



7月29日 材料フェスタ in 仙台



7月30、31日 オープンキャンパス for 女子高校生2014



9月8日、9日 サイエンスフェア



9月20日 楽しい理科のなし



9月25日、6日 出陣セミナー 宮城県立電気第一高等学校



11月7日 ノルウェー大使 東北大学訪問

仙台10ンタクラブ 東北大学大学院
女子学生海外渡航支援

この制度は、国際理解と社会貢献、女性の社会的地位向上を目指す団体「仙台10ンタクラブ」から、これからの社会を担う前途有望な人材への支援として、本学に在籍する大学院女子学生を対象に開始された支援金で運営しています。2007（平成19）年から始まり、今年で9年目の取組となります。

海外で開催される国際学会等で研究発表を行う大学院女子学生の選別に係る費用を支援することにより、世界で活躍できる女性の人材育成並びに本学における男女共同参画を推進することを目的としています。

[利用者の声]

今回IEEE EMCという学会に海外渡航支援事業から援助をいただき、参加させていただきました。この学会は私の研究している電気工学分野では最大級の学会とされており、このような大規模な国際学会へと参加し、自分の研究を発表するという、研究者として大変有意義な時間を過ごすことができました。貴重な経験を得られたことに感謝しております。

森まさこ氏、河村潤子氏、
辻村みよ子氏が本センターを来訪

11月29日（木）に開催した第11回東北大学男女共同参画シンポジウムに来賓としてお越し頂いた森まさこ氏（前女性活力・子育て支援担当大臣）、河村潤子氏（文部科学省生涯学習政策局長）、そして前東北大学法学部研究科教授（現・明治大学法政科大等教授）であり、第1回選考記念賞を受賞された辻村みよ子氏が本センターを来訪されました。

ノーベル生理学・医学賞受賞
オリヴァー・スミティース教授、
前田信代教授ご夫妻 本センター来訪

ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授であり、2007年ノーベル生理学・医学賞受賞者であるDr. Oliver Smithies氏とノースカロライナ大学チャペルヒル校ロバート・H・ワグナー特別教授である前田信代氏（1977年東北大学理学博士取得）が12月10日（水）男女共同参画推進センターを来訪され、意見交換を行いました。本センターからは、大槻副センター長・横爪センター助手・SAや学内の女性研究者ら10名が参加しました。

動脈硬化のモデルマウス作製で有名な前田先生ですが、「研究との出会いは、思い返せば、アサカガオの開花について『自由研究』がはじまりだった。』という機要ましいエピソードを語りました。スミティース先生は、「研究のひらめきを得るには、よく眠り、たくさんディスカッションをすることが大事。後輩などに教えるということも自分の考えや研究内容についてより深める良い機会になる。」（将来のパートナー選びがとても大切、お互いを尊重し合える相手を選びましょう）」というアドバイスがありました。

日本では理系に進学する女子学生がまだまだ少ないのが現状ですが、前田先生はノースカロライナ大学では半数以上が女子学生であるとのこと、意見交換は時間隔たっても驚きことなく、次世代の女性研究者へ温かいエールをいただきました。